

令和7年度 教科研修会 I 国語科 授業の様子

単 元 名	筆者の書き方のよさを説明しよう—『クマゼミ増加の原因を探る』		
授 業 学 級	2年B組 (40名)	授 業 者	矢島 幸太郎
教 科 の 学 び	文章全体と部分との関係、文章の構成や論理の展開について考える		

【本時の様子】

生徒たちは、筆者が結果的に否定された仮説Ⅰを示した理由を考えるために、否定された仮説とその他の部分とのつながりに着目して、仮説Ⅰの役割について追究しました。

『前提』と『仮説Ⅰ』はつながっており、『前提』を基に『仮説Ⅰ』が立てられている」と考えた生徒は、『前提』で述べられているクマゼミの一生の中でも、小さく未熟で危険な状態である卵の段階に注目して実験していることや、『研究のきっかけ』・『前提』の二つに共通している、気温の変化に注目して仮説Ⅰが立てられていることを基にしながら、仮説Ⅰの役割について自分の考えをまとめました。

全体追究では、『研究のきっかけ』や『前提』だけでなく、『まとめ』の部分にある「科学的な根拠を一步一步積み上げて臨む姿勢が大切である」という筆者の考えが、結果的に否定された仮説Ⅰをわざわざ示したことと関連があると、A 生が発言しました。友の考えを受けて、部分だけでなく、文章全体の構成と内容を関連させ、筆者の主張やそのよさを捉えていく生徒の姿がありました。

次時は、図表に注目して、沼田さんの文章の書き方のよさを解明していきます。文章の構成や部分の役割に注目して考えたよさや筆者のねらいと、図表の役割や配置の意図に注目して考えたよさが結びつくことで、生徒には新たな問いが生まれるでしょう。そうして学びが連続し、深まっていくように、生徒と共に歩みたいと思います。



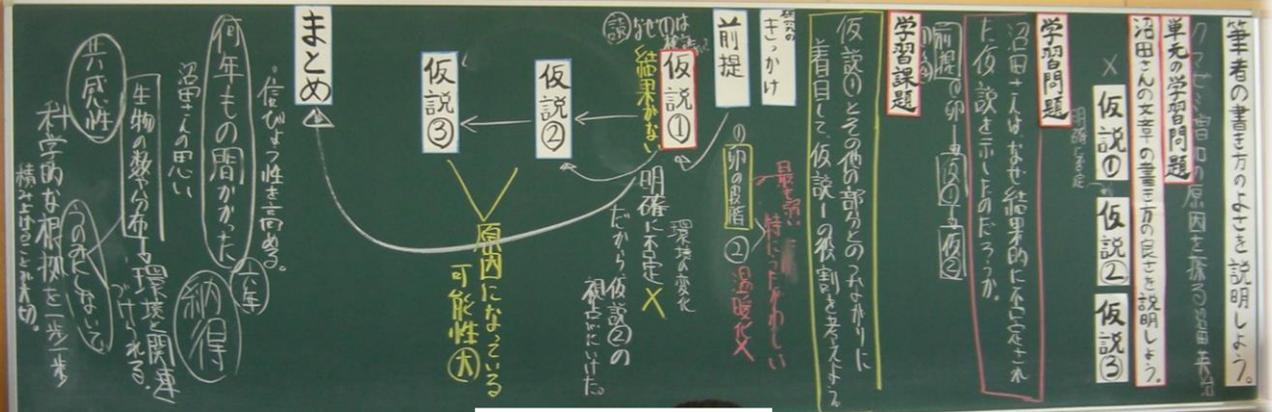
生徒に寄り添う教師
(個人追究)



友の考えを書き記す生徒
(友との追究)



全体追究の様子



本時の板書